

骨転移を有する肺がん患者における生命予後規定因子の後方視的研究

1. 研究の対象

2017 年 1 月～2021 年 12 月に肺がんの骨転移と診断され、当院でリハビリテーションを行った患者の方

2. 研究目的・方法

骨転移はがん患者の身体機能低下の大きな原因となります。肺がんは骨転移をきたすことが多く、骨転移への対応が日常生活を維持するうえで重要です。骨転移患者の問題点として、骨転移を有することで必要以上に安静を指示してしまうことが多く、廃用による身体機能低下を招いてしまうことが少なくありません。肺がんの薬物治療は劇的な進歩を遂げており骨転移への対応もそれに合わせて最適化していく必要があります。本研究では 2017-2021 年に肺がんの骨転移と診断され、当院でリハビリテーションを行った患者の方について予後に関わる項目を調査し、さらに活動性が改善した患者さんについて何が活動性改善につながったのかを検討して、今後の肺がん骨転移症例に対するリハビリテーション介入方法について考察するきっかけとすることを目的とします。研究実施予定期間は倫理審査委員会承認日から 2025 年 9 月です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、組織型、ドライバー遺伝子変異の有無、初診時および骨転移出現後の最良 Performance status、化学療法最良総合効果、骨転移に対する放射線治療および手術の有無、骨修飾薬の有無、骨以外の遠隔転移の有無、等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター リハビリテーション科 田宮 大也（研究責任者）

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181